

# 神戸市市民福祉調査委員会 介護保険専門分科会

## 平成28年度 第2回企画・調査部会

日 時 平成28年10月17日（月） 午後1時25分～午後2時53分

場 所 神戸市役所危機管理センター 本部員会議室

出席者 松原部会長、本澤委員、村岡委員、中村委員、増山委員、中根委員

### I 開 会

### II 定足数の確認

### III 関係者の紹介

### IV 部長あいさつ

### V 議 事

#### 【報告事項】

#### ②第7期介護保険事業計画策定にかかる国の動向について

##### ●委員

委員は、国の審議会を傍聴されたと伺っておりますが、どのような議論のやりとりがありましたか。

##### ●委員

福祉用具については、現在、高額のものとして4万円も差がある福祉用具が幾つかあるので、それを一定化しようという方向で動くみたいです。物によっては標準価格を提示することです。

例えば、車いすでしたら、ケアマネジャーと福祉用具対応事業者の2人の関係で是非を判断しているようなので、適正利用という面において、ケアマネジャーとか他の職種とうまく連携して適正が図れるようにした方がいいのではないか、という意見がありました。

それから、介護度で福祉用具の負担率を変えようという話も出ていましたが、それは皆さん大反対でした。

それから、軽度者につきましては、神戸市では、平成29年から総合事業がスタートするのですが、現在、全体としては3分の1ぐらいしか総合事業を実施しておらず、審議会の全体の雰囲気としては、もう少し現状をきちんと把握してから今後の方針を出すべきでは

ないのかという意見がありました。また自治体からも、すべて対応できるように制度を変えることは当面できないので、もう少し先送りにしてきちんと制度が機能するようにするのはどうかという意見が多かったと思います。

あと、ケアマネジャーのケアプランについて、現在、プランを立てることを全て無料でやっていますが、適正化や、利用者の方がより理解するということを考えると1割負担にすればどうかという議論がありました。学者は必要、介護職や利用者からは反対という意見の構造でした。こちらもマスコミがどのように取り上げるかなど、周りの反応を見ながら決めることになると思いますが、そのときの議論としては、五分五分という感じでした。

#### ●委員

資料の82ページの「被保険者の範囲のあり方」について、2号被保険者に対して、介護保険の適用を広げていくということは、可能性としてありますか。

#### ●事務局

現在、40歳から64歳を2号被保険者と呼んでおりますが、当初から年齢の引き下げの議論はあり、現在まで継続している様子です。現時点では明確に分かっていませんが、いずれにしても、法改正になりますので、今年の間には方向性をまとめて、来年の国会へ上程するという流れになると聞いております。

#### ●委員

これについては、拡大されないまでも、特に末期がんの方などについては、少なくとも要介護2以上ぐらいに審査会で通るようにもって行っていただきたいと思います。時々、要支援となる場合があります、その場合はどうしようもできないので、少なくとも要介護2以上に認定されるよう、ぜひそういう方向で検討していただきたいと思います。

### 【審議事項】

#### ①第7期介護保険事業計画策定に向けての実態調査について（資料3-1～5）

#### ●事務局

要介護認定を受けていない方たちが対象となる「健康とくらしの調査」について、日本老年学的評価研究プロジェクトの一環であるということですが、全国でいくつの自治体が参加していますか。

#### ●委員

39の自治体です。

●委員

39の自治体で実施するという事なので、神戸市が何か変更する余地はないようです。もう一つの要介護認定を受けている方を対象とした「在宅高齢者実態調査」は、変更する余地はあるようです。どちらの調査ももう数回やっていますね。

●事務局

制度施行時からやっています。JAGES調査については、これで3回目です。平成23年、25年、今回、となっています。

●委員

JAGESの調査については、JAGESから神戸市は他の自治体とどう違うのか、などの情報を提供してもらっていないと聞いていますが、神戸市にはどのようなメリットがあるのですか。

●事務局

全国との比較はしているのですが、他都市との比較はできていません。

●委員

横浜等と比べたいですね。

●事務局

全国で比較したうえで、例えば、介護予防の取り組みが遅れていたら、介護予防のサロン、集いの場づくりに反映する等しているところですが、他都市との比較はできないのが実情です。

あと、先ほどの資料3-4について補足の説明があります。「健康とくらしの調査」に関しまして、JAGESの調査項目の後ろに両面1枚ほど、神戸市独自の設問があります。これらは、変更可能です。

●委員

介護関係の学校や学生など、これから介護の世界に入っていく人たちに対して、現在、何を悩み、どのように感じているのか、あるいは学校教育をする方が、学生を教育するにあたって、何を悩み、何をこれから目指していかないといけないのか、また一方で、介護する側の事業者に対して、ケアマネジャーが何を悩み、事業者が何を悩んでいるのか、など、調査は実施しないのでしょうか。

●事務局

事業者については、施設に限定していますが、調査をさせていただいております。在宅

については、できておりません。事業者に対しては、シルバーサービス事業者連絡会や、ケアマネジャー連絡会の方々と意見交換させていただいておりますので、そういったところでいろいろ酌み取って対応させていただいているところです。

学校や学生に対して、どういう理由で介護の方面に進もうとしているか、あるいは悩んでいるか、などについての調査は、できておりません。これらについては、これからの課題と思っております。

#### ●委員

ぜひとも、特に学校とか学生に対して、聞いていただきたいと思います。

#### ●委員

「健康とくらしの調査」ですが、前回の回答が75%ありますが、実は回答のない方こそ本当はいろんなニーズが含まれているのではないのでしょうか。認定を受けていたら、ケアマネジャーに相談しながら記入することができるかもしれませんが、ひとり暮らしで調査に無関心であるとか、分からない方のことは反映されません。回答のない方へのフォローについて、何かお考えはありますか。

あと、施設については、少し先入観もあるのかもしれませんが、施設の方が回答に関わることによって、その回答の信憑性が担保できるのでしょうか。

#### ●事務局

「健康とくらしの調査」は、前回は75%程度ということで、回答率は高いとは思っているのですが、回答をしていない残りの方については、いろいろ心配を抱えてられることかと思えます。

現在、この調査とは別に見守りの調査をさせていただいております。65歳以上の単身の方と75歳以上の老老世帯に対して、見守りが必要かどうかというアンケートをさせていただき、必要な方に見守りをしております。この見守り調査などで、できるだけフォローしたいと思っております。

次に施設の職員が回答する件につきましては、特に特養、介護療養型医療施設等においては、介護度が3、4、5、特に4、5が多いというのもあり、なかなかご記入いただくのが難しいということもあって、入所者の調査は施設にお願いをしているというのが現状です。

#### ●委員

「健康とくらしの調査」の神戸市分は、AからHとは関係なく全員にお聞きになられる

のでしょうか。

●事務局

全員に対して聞きます。

●委員

分かりました。あと、民生委員について、東京都は民生委員のなり手がいないということで、審議会でも問題になったことがあるのですが、神戸市はそうした問題はなく民生委員を確保できているのですか。

●事務局

神戸市でも、確保に手間取っており、それに加えて、なかなか世代交代も進まず苦慮しているところです。

①第7期介護保険事業計画策定に向けての実態調査について（資料3-6～8）

●委員

事業所では、現在、新しい職員が入ってくれない。介護に携わる人たちをいかに呼び込むかということについての実態調査ということで、先ほどは介護や福祉関係の学校と言いましたが、もう少し幅広く考えて、例えば高校以上の学生さんに、介護というのをどう考えているか、また、興味があるのか、など、学校側にも同じような質問をしていただき、その中から、学生たちに介護の世界の魅力を感じてもらうために何が必要か、などを考えられるような質問を神戸市独自でやっていただけたらと思います。

●事務局

本当に介護現場での人材不足は大変深刻な状況で、介護の現場の魅力をいかに啓発・広報していくかということが非常に大事ですので、事業者と一緒に取り組んでいきたいと思っております。

●委員

大きく2点あります。1つは、地域包括ケアシステムは、高齢から始まりましたが、今は年齢に関係なく介護が必要な人をすべて地域でケアしていくという考え方に変わってきていると思います。地域ケア会議も、高齢中心に、困難事例中心にしていたものが、今後、年齢に関係なく介護が必要な人が対象となり、来年度からそのような地域ケア会議も始まるようですので、そう考えたときに、高齢者だけでなく、障害福祉との関連をあわせて調査した方がよいのではないかと思います。介護が必要な人を全て介護保険でまか

なうという考え方もありますので、できれば40歳以上ではなく、介護が必要な人にどうい  
う手当てをしなければいけないかということが分かるような調査ができればよいのではな  
いでしょうか。

もう1つは、今回の介護保険計画は、おそらく自立支援というのが全面的に押し出され  
るような計画になると思います。老健施設についても、在宅復帰、中間施設というのが改  
めて認識されて、そういう老健施設が生き残るようなシステムに変わっています。したが  
って、そういう意味では、自立支援というのをどれだけやっているか、どういうことをし  
たらいいのか、ということ意識して見直していただけたらいいのかなと思います。

この2つについて、特に自立支援に資する神戸市の第7次介護保険計画はどうあるべき  
かというのは表に出していかななくてはいけないと思いますので、よろしくお願ひしたいと  
思います。

#### ●事務局

まず、2点目ですが、自立支援ということで、来年度、神戸市でも総合事業が始まり、  
要支援の方や一般の高齢者すべてを対象に介護予防を新たに構築していくということにな  
っておりますので、介護予防の項目を増やしています。高齢者の方が日常の行動をどうし  
ているか、趣味をどうしているか、あるいはどのような活動に参加しているか、参加した  
いものは何か、などの項目を踏まえて、次の第7期計画では、介護予防と認知症の推進が  
施策として大きなものになると思っておりますので、自立支援、介護予防を推進をしてい  
くような対応をしていきたいと思っております。

次に、1点目の年齢に関係なく地域包括ケアをしていくというのはその通りでありまし  
て、特に地域包括の推進ということで、総合事業において来年度から集いの場の設定を新  
たにしていくということになっております。これは国の指針では、高齢者の他に、他の年  
齢の方も集いの場に来ていただくような取り組みが大事であることも記載しておりますの  
で、いろいろな年齢の方も参画いただきたいと思っております。

今回の調査については、高齢者に限定したものとなっております、神戸市では、介護  
保険課以外でも保健福祉局全体で様々な調査を実施しておりますので、連携していきたい  
と思っております。

#### ●委員

この調査は、おそらく地域特性がすごくあると思います。北区と中央区の違いや、西区  
でも垂水に近い方と田園地帯とは全然違いますので、ぜひその地域特性が出るような調査

にしていきたいと思えます。そうしないと、各区がどう取り組むかというときに指針が出ないと思えますので、その点も配慮をお願いしたいと思えます。

●事務局

ほかにいかがでしょうか。

もしないようでしたら、事務局の原案どおり、来月の11月1日に実施される介護保険専門分科会に図りたいと思えますが、いかがでしょうか。

●委員

(異議なし)

【報告事項】

①「介護予防・日常生活支援総合事業」の啓発チラシについて

●委員

このチラシの下の方のイラストにある子どもたちが気になります。こういう形で子どもが描かれていると、総合事業の中に子どもが入っているように見えてしまう。総合事業の中に子どもが入るようにするのが私としては理想ですが、もし高齢者だけ考えているのであれば、このイラストを大人にさせていただくのはいかがでしょうか。

●事務局

ご指摘をふまえて、変更したいと思えます。

【その他】

介護予防・日常生活支援総合事業事業者指定基準要綱制定に係る意見公募について

(意見なし)